

家庭学習の習慣化について

長万部中学校長 長谷川 秀雄

新しい学習指導要領（各教科などの目標や大まかな内容を定めているもの）による新しい学校教育が小学校ではすでに始まっています。小中高の12年間で子どもたちを育てることの大切さも記されており、小学校から中学校へ、中学校から高校へと子どもたちは進学していきますが、学習内容、学習・生活習慣の接続（つながり）が重要視されています。

「基本的な生活習慣」については、小学校時代に身に付けることがとても大切です。その中でも、『人の話をよく聴くこと』『自分のことは自分ですること』『人に迷惑をかけない』など、集団生活をする上で、とくに身に付けておかなければならないことがあります。

「家庭学習」においては小中高を通じて、宿題があってもなくても自然と自分から進んで机に向かう習慣を身に付けることが大切です。宿題があるから仕方なしに勉強するとか、人に言われたから机に向かって勉強するなど、受身的な学習では決して長続きしません。また、テレビやゲーム、スマホなど子どもの心を揺り動かすものがたくさん存在しますが、その誘惑に負けない強い気持ちを持つことも肝要です。時には、弱い心に打ち勝つ強い心、つまり我慢することも大切です。習慣化して毎日続けて学習していくと、学習の仕方が分かるようになり、分からなければ自分で分かる方法が見つかるようになります。そして、進んで学習する楽しさにも気づくようになっていきます。

家庭学習は、学校で学習し、さらに興味を持って調べてみたいことが出てきたとき、いっそう学習を深める機会となります。人の力を借りずに自分で興味を持って学習を進めることは、自分の知的財産を増やすことにつながり、とても価値のある素晴らしいことです。この学習する態度こそ生きる力と言えます。このような家庭学習の習慣化は、進学するときに自分自身の大きなエネルギーになっていくものと考えます。

毎日30分でも自分から机に向かって宿題や自由勉強などをすることを勧めます。習慣になるまではなかなかうまくできないかもしれませんが、やってみようなど興味のあることから始めるとよいかもしれません。家庭において子どもたちが自ら進んで学習していくよう、保護者の皆様、ご家族の皆様においてもご協力していただきますようよろしくお願いいたします。

第2回 家庭学習強調週間（町内の小学校・中学校・高校 共通の取組）

8月20日（月）～ 27日（月） 8日間